



市内小学校音楽発表会 (11月9日)

主な内容

- 小池市長の市政報告 24
- 「加茂川と下条川の土手のかさ上げについて」 23
- 「信濃川の土手のかさ上げについて」 4
- 二万年前旧石器公園が完成 56
- 第39回市展受賞作品紹介 79
- 長年の功労に感謝 秋の叙勲 10
- 加茂の風土記 12

市政報告 その一

加茂市長 小池 清彦

加茂川と下条川の土手のかさ上げについて

加茂市の強い要望により県御当局の御高配をいただき、加茂川の土手のかさ上げと下条川の土手のかさ上げが、県の河川整備計画(案)の中に入りました。

この案は、最終的に国土交通省北陸地方整備局長の認可を得て、正式な計画となることになっております。

今後は、信濃川の土手のかさ上げが平成二十年度末までに下流から刈谷田川

まで完了する予定ですので、それに合わせて早急に加茂川と下条川の土手のかさ上げを県に行つていただくよう全力をあげたいと思います。

平成十六年の七・一三水害で決壊した五十嵐川と刈谷田川の改修工事が急ピッチで進んでいますが、これが完成しますと、この両河川は、大豪雨においても決壊しないものと考えられております。

そうなりますと大豪雨があつたときは、五十嵐川と刈谷田川の水は、街や田畑へ流れ出すことなく、すべて信濃川へ流れ込むこととなります。

そうなりますと、水かさが増して信濃川の土手を越えてはん濫するおそれが出てきます。そこで、国土交通省は、直轄工事として平成二十年度末までの短期間に信濃川の土手を下流から刈谷田川までかさ上げすることとし、現在急ピッチでその工事を進めています。

そこで二年後に信濃川の土手のかさ上げが完了しますと、今度はそれに合わせて、加茂川と下条川の土手のかさ上げを行いますと、満々と信濃川を流れてきた水は、加茂川と下条川をさかのぼって、土手を越えて、さらには土手を決壊させて加茂市内に津波のように流れ込むことになります。

そこで私は、加茂川と下条川の土手のかさ上げを両河川の管理者である新潟県の河川整備計画(案)の中に入れるよう、七・一三水害の直後から強く県当局に要請してまいりました。

その後、いろいろな経過がありました。私が県の河川協会の会長であることも幸いして、県御当局の格段の御高配の下に、両河川の土手のかさ上げが認められ、県の河川整備計画(案)の中に入りました。

その間、十一月二日、加茂市で住民説明会が行われ、十一月二十二日信濃川下流(山地部)圏域河川整備計画協議会の承認を受けて、この案が決定されました。

この案は、最終的に国土交通省北陸地方整備局

長の認可を経て、正式な計画となりますが、このたびの案のとおりになるものと思います。

このたびの県の河川整備計画(案)の内容は、次のとおりです。

(一) 加茂川は、下流からJRの鉄橋まで土手のかさ上げを行う。

(二) 下条川は、下流からJRの鉄橋より上(かみ)の新川一号橋まで土手のかさ上げを行う。

(三) 加茂川下流にできた中州につきましては、計画(案)には書かれておりませんが、土手のかさ上げのときに、この中州を取り除いて、即ち河道掘削を行って、その土を土手のかさ上げのために利用することになるものと思います。下条川についても、同様のことになると思います。

今後は、信濃川の土手のかさ上げが平成二十年度末には完了することを念頭において、早急に加茂川と下条川の土手のかさ上げが行われるよう県当局に要望を続け、その実現を期したいと思います。

市政報告 その二

信濃川の土手のかさ上げが平成二十年
度末までに、下流から刈谷田川まで完了

する予定ですが、その千年に一度ともい
うべき好機に、次のことが国土交通省の
信濃川下流河川事務所により了承され
ました。上谷昌史所長さんに心から感謝
申し上げます。

(一) 兩岸の土手に対面通行できる加茂市
の市道を整備する。

(二) 川西の入江商店の川側にもう一つの
まっすぐな土手を造る。

(三) 須田の三条市との境のあたりで切れ
ている土手をつなげる。

(四) 須田の山内組の事務所の前のあたり
の河川敷の私有地約五丁歩が買収され
るところに加茂市が公園を整備する。

なお、この場所は、春には桃の花や梨の
花が咲き乱れる中を大河信濃川が
悠々と流れ、はるかかなたに、守門岳、
粟ヶ岳、白山の三山を望む日本有数と
もいえる美しい場所ですので、この公園
は、実の採れない桃の花の公園にするの
がよいのではないかと思っています。



約8,700㎡の丘陵に広がる二万年前旧石器公園

古代のロマンが広がる丘陵

二万年前旧石器公園が完成

十一月十一日、市民福祉交流センター加茂美人の湯で、加茂市二万年前旧石器公園竣工式が行われました。この公園は、平成十四年度に「加茂市丸山遺跡」として発掘が行われ、四百点以上の石器が確認されました。地層や出土状況を調査した結果、約二万年前の旧石器時代のものであると結論づけられたものです。

この遺跡は、学術的にも重要であり、歴史的にも貴重な文化遺産であることから、調査区域一帯を保存していくことになり、公園として整備されました。

調査後、埋め戻された場所には、芝生が張られ、丸太風のベンチが置かれています。また、埋蔵物のなさそうなところにログハウス風トイレ（障害者用トイレも設置）と駐車場も整備されています。東屋もつくられる予定です。丘陵状の敷地内は、自由に利用できます。

式典では、小池清彦市長が「歴史的ロマンを感じていただける場所として整備されました。加茂美人の湯・冬鳥越スキーガーデン・粟ヶ岳県民休養地とあわせて加茂市の新たな名所となります」とあいさつしました。続いて、菊田まさこ衆議院議員、金谷国彦県議会議員、



菊田まきこ衆議院議員



金谷国彦県議会議員



関 龍雄市議会議長



加茂美人の湯 大広間で行われたテープカット



小池清彦市長



平成14年に発掘調査したときの石器の出土状況

二万年前旧石器公園 市指定史跡 丸山遺跡

丸山遺跡は大谷川左岸で、丘陵の裾部から張り出した段丘上に広がる後期旧石器時代の遺跡である。加茂市教育委員会では平成14・15年に、合計約216㎡の発掘調査を行い、石器が丘のほぼ全域で発見された。出土した石器の点数は約400点に上る。

石器の種類は、ヤリのように使用したナイフ形石器、木や骨などの加工に使った彫刻刀形石器を中心とし、彫器削片、削器、石刃、石核、剥片などがある。石器の特徴から、中部地方に展開する杉久保型ナイフ形石器文化の仲間と判断される。また、石器が出土する地層とその上下の土について火山灰の成分分析を行ったところ、石器出土地層の下位に南九州の始良カルデラから噴火したAT火山灰（約2万5千年前）、上位に浅間草津火山灰As-K（約1万6千年前）が確認され、概ね2万年前の石器であることを裏づけている。

これまでのところ、丸山遺跡は加茂市最古の人類の足跡を示す重要な遺跡であり、その学術的価値は極めて高い。

平成15年5月13日指定 加茂市教育委員会

公園内の丸山遺跡説明板より



出土した石器

関龍雄市議会議長がお祝いのあいさつを述べられました。
加茂市二万年前旧石器公園の場所は、国道二九〇号線の南蒲原森林組合脇から県道を上大谷方面に進み、上大谷地区に入って右手です。
お問い合わせは、市役所社会教育課（電話52-0080内線461）へ。

第39回 市展

市展賞受賞作品紙上紹介



洋画

「ひめさゆり咲く」
渡辺 美保子 さん



書道

「秋下荊門」
鶴巻子婉さん

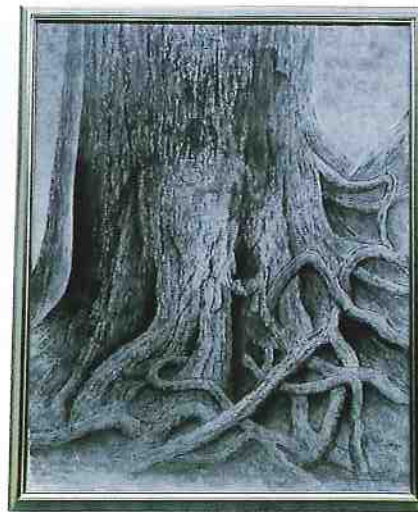


写真

「あやとり」
泉田 忠穂さん

日本画

「根」
菅家 照子さん



彫刻

「早春」
有本 栄子さん



工芸

「萌えぎ立つ」
木村 富美子さん



第三十九回市展の各部門で市展賞を受賞された皆さんから、受賞された感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介します。

日本画

「根」

菅家照子さん(陣ヶ峰)

このたびは、日本画部門の水墨画で市展賞をいただきました。誠に光栄に存じます。今回も参加させていただく気持ちで出品いたしました。

杉の木肌を手で触りながら、生命を感じとる思いを込めて描き上げました。私より立派な作品を描いておられる諸先輩方の中で、「根」を評価していただき、ありがとうございます。

ご指導をしてくださっておられる水墨教室の小林信先生をはじめ、そのほかの皆様感謝いたします。

洋画

「ひめさゆり咲く」

渡辺美保子さん(三条市)

ひめさゆりをテーマとし、描き始めて三年の月日が流れました。

六月下旬から七月上旬に咲き、この時期にしかデッサンできず大変苦労しますが、可憐で儂くも、それでいて忘れ得ぬ香りを放ち、存在感あふれる姿に魅了され続けています。以前は、薄やぶの中に、ひっそりと咲く一輪のひめさゆりに焦点を当てる構図をとっていましたが、今回より初夏の草の中に群れなして咲く、艶やかな、ひめさゆりとしてみました。この作品を観て説明なしに綺麗だと感じていただけたのなら幸いです。

まだまだ表現力が乏しく、自分らしさの追求が足りませんが、いつも見守っていてくださる方々に、少しでも前へ成長したなと思っただけできるよう、感性、感受性を磨き努力していきたいと思えます。

また、市展運営に携われました方々へ感謝申し上げます。

彫刻

「早春」

有本栄子さん(高須町二)

彫刻の部で市展賞をいただけるとは思っていなかったもので、びっくりしております。

私は日本画を習っておりましたが、絵は平面のところを描いていきますので、彫刻のように、縦、横、前、後と立体に作るのはむずかしく、形ができた時の喜びは格別でした。これもひとえに、指導してくださった高橋国一先生と、いっしょに学んでいるサークルの皆さんのおかげと思っております。

私は頭像しか創ったことがありませんが、骨格はどうなっているのか、目鼻のバランスなど、いつも見ているのに意識して観ないとわからないことを実感させられました。

この賞を励みに、少しでも、前進できるよう、楽しみながら創作していこうと思えます。

新潟日報美術振興賞の皆さん

- 日本画 「早春の粟ヶ岳」 小柳英一(八幡1)
- 洋画 「威嚇」 桑原茂(幸町1)
- 彫刻 「長月」 中澤恵子(八幡2)
- 工芸 「あつら敷く」 鈴木イツ乃(田上町)
- 書道 「唐詩8首」 相波富喜(小橋2)
- 写真 「夏まつり・夜の大饗宴」 五十嵐立幸(三条市)



工芸

「萌えぎ立つ」

木村富美子さん(新潟市)

このたび、市展賞という大変素晴らしい賞をいただき、とても嬉しく思っています。

今回、出品させていただいた作品「萌えぎ立つ」は、草木の芽吹く頃の豊かな自然の中に舞う蝶をイメージし、色漆と螺鈿(らでん)で表現してみました。

公民館の漆教室で中村先生と漆に出会ってまだ三年、イメージの表現や漆の扱い方など、わからないことがたくさんありますが、一生懸命頑張っていきたいと思っています。そして、新潟在住の私を受け入れてくださった加茂市、いつも指導し、サポートしてくださっている中村先生に深く感謝いたします。

書道

「秋下荆門」

鶴卷子婉さん(幸町一)

市展の書道の部で名誉ある市展賞をいただき大変光栄に思うと同時に驚いております。

書作品を取り組むとき、線・点の響き・温もりが思うように表現できずいつも四苦八苦しております。師匠からは、常日頃、古典をしつかり勉強し、その作品の意味するところを理解して、表現するようにと指導を受けているのですが、未熟者の私には思うに任せない毎日です。

このたび、市展に出品してみようと決めたとき、常日頃の一点一画にかける思いは別にして、楽しく気分良く書いてみようかと決意して作品つくりに取り組みました。賞にはあまりこだわっておりませんでしたが、この大賞は感激と同時に戸惑いの賞でもあります。

常日頃ご指導賜っております先生をはじめ、先輩諸氏のアドバイスのおかげと感謝しております。

これからも楽しみながら精進を重ねてまいりたいと思います。ありがとうございます。

写真

「あやとり」

泉田忠穂さん(小橋一)

昨年に続いての市展賞の受賞に感激で、胸がいっぱいです。

定年で会社を退職し、可愛い孫の写真を撮りたいと始めた写真です。今回は、その孫たちを写した作品が受賞したことで、家族みんなが大変喜んでおります。母親から教わった、綾とりで夢中になって遊んでいる姿を見て、私も子供の頃を思い出して撮った一枚の写真です。六十の手習いで孫の写真を取りたいと始めましたが、なかなか奥深いものを感じます。

今回、おかげさまで公民館の写真サークル「写楽加茂」の皆さんと、外石富男先生の温かいご指導で素晴らしい賞をいただくことができました。この受賞を励みにますます精進し、心温まる写真を撮ることに努力し、また趣味としての写真を楽しみたいと思います。

奨励賞・振興賞の皆さん

奨励賞：日本画 「山の宝石」板垣悦子(新潟市)、「筍」萱森玲子(柳町)、「時を越えて」大矢義夫(青海町2)：洋画 「spring water(春の夢)」永井美奈子(栄町)：彫刻 「無」太田征吾(新栄町)：工芸 「駆ける」清水重作(後須田第3)、「掻き落とし石露壺」小柳英一(八幡1)、「森の奥に」永井和子(天神林)、「9月の夕映」坂上和雄(第23区)：書道 「良寛詩」太田止水(栄町)、「国上」佐藤芳春(寿町)、「臨 和泉式部続集切」小林俊江(三条市)、「杜甫の詩」山際葉月(神明町2)、「白楽天の詩」坂上三津(上大谷)、「良寛 僧伽の詩」小出禾子(三条市)：写真 「夕陽に望む」福井健一(神明町2)、「みつめあい」遠藤勝(三条市)、「ぼくの正装」土田貞夫(大郷町2)、「ひと休み」渡辺幸夫(青海町1)、「父子」樋口八重子(五番町)

振興賞：洋画 「古代の詩」西村知美(県央工高)：書道 「臨 石門頌」五十嵐なつみ(三条東高)、「臨 金文」中山優(三条東高)、「臨 祀三公山碑」番場はるか(三条東高)



長年の功労に感謝 秋の叙勲

秋の叙勲で、加茂市から元学校医の吉村宇一郎さんが受章の榮譽に輝きました。その喜びの声をうかがいました。

瑞宝双光章

(学校保健功勞)



吉村宇一郎さん
(駅前・81歳)

「ただ長生きして、現役として長く医者をやってきただけ。特別のことは何もしていません」というのが叙勲の感想です。

吉村さんは、昭和二十四年に東京医学専門学校(現・東京医科大学)を卒業後、東京日赤産院に勤務。昭和二十七年には、加茂で開業医をしていた叔母の急病により帰郷し、医院を手伝う一方、自身も開業して現在に至っています。

その間、およそ半世紀にわたり下条小学校、下条中学校、須田小学校、七谷小学校、七谷中学校の

学校医を務め、健康指導を通して児童・生徒の保健管理と健康増進に尽力しました。特に昭和五十八年度からは、市学校教育研究会養護教諭部会の研修会講師として、指導に当たりました。

学校医から見た今の子どもたちは「低学年の子どもの体格は昔とそう変わらないが、四年生ぐらいからぐっと大きくなった」と言います。小・中学校のほかにも、市内の高校や短大の学校医を務め、平成十年から平成園、第二平成園の嘱託医として、老人医療、老人保健にも携わり、地域医療全般にわたって貢献を続けています。

一昨年秋に加茂市医師会は創立五十周年を迎え、医師会会長も務めました。「創立当時のメンバーで今なお現役は自分だけになった」と苦笑します。趣味のゴルフは、四十年のキャリアを誇り、加茂市の草分け的存在でしたが、「足腰が弱くなってきた」と今年クラブを置くことにしたということです。

半世紀の労苦を二人で歩む 金婚を祝う会

十一月十七日、産業センターで金婚を祝う会が開催されました。

金婚を迎えられたのは、昭和三十一年四月から翌年三月に結婚されたご夫婦と、これまで出席できなかったご夫婦の方々に、今年は十九組が参加。会場では、ご夫婦の記念写真と全員の集合写真を撮影し、祝賀会が行われました。

小池清彦加茂市長は「医学の発達で人生五十年から百年へと二倍になりました。そうすると還暦までが第一の人生で、そこからが第二の人生となります。お二人揃って



て金婚を迎えられたことは、嬉しいこと。第二の人生の青春をおう歌してください」とあいさつしました。

出席されたご夫婦を代表して、田浦甲介さん(中大谷)が「戦後の混乱期から高度経済成長期を経て、いろいろな出来事を二人で経験してきました。これからも家族とともに楽しく、また地域社会に貢献していきたいと思えます」と話され、同じ年月を過ごされたご夫婦同士の会話で楽しいひとときとなりました。

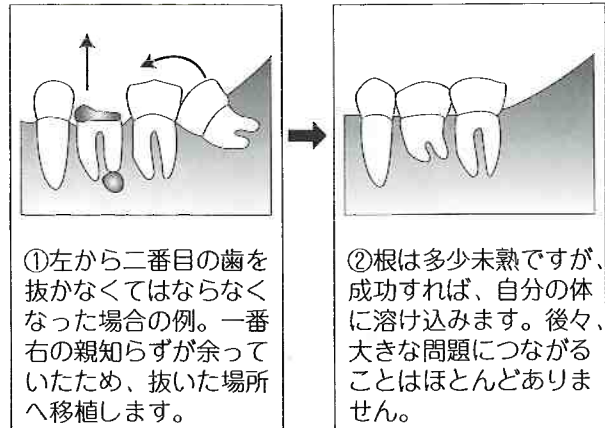


歯牙移植って何？

今までは虫歯や歯周病で歯を失ったときは、その両側の歯を削ってブリッジを入れるか、取り外し式の入る歯を入れるしかありませんでした。

しかし最近では、インプラントや歯牙の移植によって、両側の歯を傷めずに歯を入れることが可能になりました。インプラントとは、顎の骨に穴をあけて金属製のクギを打ち込む方法です。近年では成功率も高くなってきましたが、所詮は金属。永遠に体の組織になることはないため、現在の方法では異物を骨に埋め込んでいることになり、長期的に見て不安が無いわけではありません。

これに対し「歯牙移植」とは、余っていた親知らずなどの歯を失った部分に移植することをいいます。移植に成功すれば、もともとあった歯のように組織に溶け込みますから、長期的に見ても不安は非常に少ないといえます。もし失敗したとしても、インプラントは周囲の骨がごっそり無くなるのに対し、歯牙移植では移植し



①左から二番目の歯を抜かななくてはならず、一番右の親知らずが余っていたため、抜いた場所へ移植します。

②根は多少未熟ですが、成功すれば、自分の体に溶け込みます。後々、大きな問題につながることはほとんどありません。

た歯が抜けるだけで骨に異常はあまり出ません。

こう書くと良いことばかりのように聞こえるかもしれませんが、欠点もあります。●余っている歯がなければ移植できないこと。●移植に使う親知らずなどは未熟なことが多く、他の歯に比べ弱いことが多いこと。●歯を失ってから長期間たつたところへ移植することは難しいこと（不可能ではありませんが）。これら欠点はありませんが、条件さえそろえばかなり高率で成功する手術です。

（加茂市歯科医師会）

第3回 加茂菊花展

菊花愛好家の皆さんが、一年間丹精こめて育てたものが、スキーガーデン特設会場に展示されました。今年は、天候や日照時間が例年と異なり、花を咲かせるタイミングが難しかったそうです。それでも二百七品が出品され、次の各部門での賞が決まりました。

（敬称略）

- 【総合賞】※各部門の優秀賞から選定
市長賞「太平銀峰」近藤謹市（七幹立・新潟市）・二等賞「輝」桜井美千代（懸崖・新潟市）・三等賞「宮ノ松」大竹与市（中菊・新潟市）

- 【管物三幹】優秀賞「天女の名所」高橋輝継（北潟）・第一位「岸の秋鈴」高橋輝継・第二位「清見の翁」安中朝次（上町）・第三位「天女の名所」高橋輝継、「泉郷富水」斉藤稔（三条市）、
- 「岸の秋鈴」佐藤賢之輔（燕市）
- 【厚物三幹】優秀賞「太平銀峰」大山



- 幸一（三条市）・第一位「太平銀峰」高橋輝継・第二位「太平銀峰」高橋輝継・第三位「太平銀峰」佐藤喜一（後須田第四）、「国華雲竜」大竹与市
- 【懸崖】優秀賞「輝」桜井美千代・第一位「わかば」大竹与市・第二位「輝」安中朝次・第三位「白妙」安中朝次
- 【七幹立】優秀賞「太平銀峰」近藤謹市・第一位「泉郷富水」大竹与市・第二位「精興右近」大竹与市・第三位「国華金山」石倉広茂（新潟市）
- 【盆栽】優秀賞「石植」相田文男（新栄町）

- 【中菊】優秀賞「宮ノ松」大竹与市・第一位「乱糸」酒井栄策（三条市）・第二位「江戸黄八丈」関川功（下鶴森）・第三位「元禄丸」関川勝（下鶴森）
- 【だるま・福助・切花】優秀賞「国華菊桜」大竹与市・第一位「清見の松風」安中朝次・第二位「太平銀峰」桜井美千代・第三位「国華金山」青木丞輔（燕市）

加茂市の旧石器時代遺跡

清流加茂川やその支流が作り出した河岸段丘上には多くの遺跡が営まれていたことが知られ、中でも、加茂川上流部の七谷地区では、旧石器〜縄文時代の遺跡が多く確認されている。

旧石器時代は気候も今より寒冷で土器は発明されておらず、主に石の道具を中心とし、狩猟を中心とした生活スタイルであったと考えられている。確実な住居跡の発見は少なく、多くは石器が集中して出土する「ブロック」と呼ばれる跡が見つかる。遺跡発見のきっかけはその石のかけらとなる。

加茂の風土記

加茂市内ではこれまで旧石器時代の遺跡が五カ所で発見されている。最初に発見された遺跡は加茂川右岸の段丘上、黒水地内の岩野原B遺跡である。昭和四十年代に三条商業高校社会科学考古班クラブの活動により彫刻刀形石器など数点が表採されて



平成14年の発掘調査当時。現在は二万年前旧石器公園として整備されている。

その後、昭和六十年に地主を通じ、下高柳地内から出土した黒曜石製のナイフ形石器が資料館に寄贈された。山王原遺跡出土品である。周辺は杉林で長らく遺跡の所在が不明確であったが、平成十六年には場整備事業に関係した確認調査を実施したところ、ナイフ形石器などが出土し、確実に遺跡であることが実証された。宮寄上地内の牛ヶ沢B遺跡は平成四年に発掘調査された縄文時代の小規模な遺跡であるが、石器の素材となる石刃が三点出土した。これらの遺跡が数点の石器が採集されたのに対し、上大谷地内の丸山遺跡は学術調査が行われ、石器の組成や年代を考える情報が得られている。平成十四・十五年に約二百十六m²が調査された結果、舌状に張り出した丘の全域から石器が出土または採集され、石器の点数も四百点を超えた。石器の種類は、ナイフ形、彫刻刀形石器などの狩猟具を中心とし、彫器削片、削器、石刃、石核、剥片など石器製作を示す遺物も多く出土した。その形態及び組成から中部地方に展開した杉久保型ナイフ形石器文化の一群と考えられている。また、遺跡内に堆積した土の分析結果と石器出土状況を検討したところ、石器出土土層より上位に浅間草津火山灰（約二万六千年前）、下位には南九州の始良カルデラから噴出したA/T火山灰（約二万五千年前）の存在が確認され、おおむね二万年前の石器群であることが裏付けられた。

おそらく岩野原B遺跡、山王原遺跡もほぼ同時期の遺跡であろう。これらの遺跡は約二万年前頃の祖先の足跡が確認できる最古の遺跡と言える。このほど丸山遺跡は公園として保存・活用されることになった。二万年前の風土を体感し、郷土愛を育む場所となることを期待したい。

(伊藤秀和)

あじろ

社会福祉費寄付金

▼加茂中三七会から

十七万六千八百八十三円

▼勤労青少年ホーム「フラワーズ」
「ザイン講座」一同から 三万円

人口のうごき

11月1日現在
世帯 10,022 (+10)
人口 32,148 (+1)
男 15,538 (-2)
女 16,610 (+3)
()内は前月比
(10月異動分)
出生 15 (男11女4)
死亡 34 (男21女13)
転出 38 転入 58

発行 加茂市役所 新潟県加茂市幸町二丁目三番五号 TEL025660080 FAX025662729
ホームページ http://www.city.kamo.niigata.jp
編集 総務課 印刷 株小野塚印刷所